



安全で安心な町づくりを支援するため 防犯パトロールカーを市区町村に寄贈

千葉県遊技業協同組合
「地域の安全・安心対策支援」
～県内全市区町村に防犯PC配備～
事業



千葉県遊技業協同組合
理事長
田中幸也さん



各ホールに夢まる防犯パトロールカー寄贈式を
報告するポスターを掲示して周知に努める

夢まるふあんの地域振興事業として 2006年から防犯パトロールカーを寄贈

千葉県遊技業協同組合（以下、千遊協）、千葉日报社、千葉テレビ放送、ベイエフエムによって設立された「夢まるふあと委員会」では、2005年から「夢まるふあと」という名称で様々な社会貢献活動を展開している。これは千遊協の加盟ホールに来店した遊技客から「夢玉（こぼれ玉）」や景品交換時に発生する「余り玉」を基金として寄付してもらい、それを原資として積み立てたものを、千葉県内の福祉施設やボランティア団体、地域づくりや地域おこしに取り組む自治体や関係団体、文化財保護などの文化活動の支援金として毎年、拠出していこうというものである。

その一つが「ちばふるさと振興サポート」という地域振興事業だが、その一環として、「夢まるふあと」では2006年から県内の市区町村に犯罪の防止に効果を発揮する防犯パトロールカー（通称、青パト）を寄贈することで、千葉県が推進する安全で安心な町づくり活動を支援する事業を継続してきた。寄贈先の選定にあたっては、公正を期すため、千遊協の社会貢献委員とメディア3社の担当者による実務者会議を開催して厳正な審査を行い、毎年5台の寄贈先市区町村を決定し、贈呈式を行って寄贈を実施してきた。

事業開始から12年目を迎えた昨年、市川市、浦安市、市原市、袖ヶ浦市、芝山町の4市1町に5台を寄贈したことで、県内60の全市区町村に60台の青パトが配備される



寄贈式には森田県知事や小出市長（市原市）も参加し謝辞を述べた



挨拶をする森田県知事

ことになった。青パトの公募には例年、市区町村からの問い合わせや多数の応募が寄せられているほか、寄贈した青パトは地域防犯パトロール隊と連携した活動や、児童・生徒の見守り活動などに効果を上げており、寄贈先からの評価も高い。

昨年の5台の防犯パトロールカーの寄贈で 県内60の全市区町村に配備を達成

昨年11月1日に千葉市中央区で実施された贈呈式には、寄贈を受ける各市町長などのほか、来賓として森田健作知事、県警生活安全部の部長が出席した。夢まるふあと委員会を代表して、副委員長を務める千遊協の田中幸也理事長は、「今回で発足時から目標とした全市区町村への寄贈が終わったが、これからも続け、県内の犯罪抑止に貢献していきたい」と挨拶。また、森田知事からは、「寄贈された青パトを県民のために有効利用して、日本一、安全安心な千葉をつくろう」という挨拶があった。

青パトのレプリカキーを贈呈された5市町を代表して挨拶した市原市の小出譲治市長は、「青パトは犯罪抑止に役立つ。効果的に活用して地域社会の安全安心の確保に全力を尽くす」と謝辞を述べた。さらに後日、青パトを贈呈された各市町から感謝状が贈られたほか、袖ヶ浦市からは市政の発展への功績が認められ表彰を受けた。

贈呈式の模様は、千葉テレビニュースで放映されたほか、翌日の『千葉日報』に記事として掲載された。また、夢まるふあと委員会ではポスターを作成して傘下の各ホールに掲示し、ホールを訪れる遊技客へ協力への感謝と実積の報告をしている。この寄贈事業のこれまでの総額は約7,500万円に上り、これでひとまず当初の目的を達成したことになるが、2018年以降も森田県知事が積極的に推進する「防犯ボックス事業」との連携を図りながら、事業を継続していく方針だ。